

3. 活動内容

- (1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

金沢市立内川小学校・金沢市立内川中学校

[はじめに]

本校は、金沢市の南西部に位置し、内川と伏見川にはさまれた山間地で、地区内には金沢市民の水がめである内川ダムがあるなど、自然豊かな場所であり、明治8年に開校した。児童生徒数は、小学校30名、中学校27名、教職員は19名である。

平成22年に、ユネスコスクールの認定を受け、環境や文化、伝統を主要テーマとして、

内川

～私たちの身近な自然から大きな社会へ～

1 ユネスコスクールとしての取組

小学校3年生

- ・校区を探検し、内川特有の植物（カタクリ、たけのこ、山菜など）を観察し、詳しく調べたりまとめたりすることで、内川の植物の四季の変化について気づくことができた。また、調べた事を中学生に発表し、地域への愛着を深めた。

小学校4年生

- ・校区に群生する竹の種類や成長の様子を調べ、新聞にまとめた。また、地域の方をゲストティーチャーに招いて、竹を使ったおもちゃを作成することで、地域と竹が密着していることを実感できた。

小学校5年生

- ・内川特産のタケノコの料理について、その歴史や特色を調べたり、内川の環境について調べたりすることで、自分たちの住んでいる地域を大切にしたいという思いを持つことができた。

小学校6年生

- ・地域の方に内川の歴史（内川小中学校の歴史、小原町のお店、内川スキー場の歴史）をインタビューし、中学生に発表したり、文化祭で参加者全員にプレゼンテーションすることで、地域の人材や地域のすばらしさを再認識することができた。特に、文化祭には地域の方もたくさん参加しており、参加者全員で改めて知った事が多く、とても好評だった。



中学校全学年

- ・毎年生徒会主催で、地域の特産物であるたけのこを使った委員会対抗の『たけのこ合戦』(た

けのこ創作料理大会)』を行っている。校舎の裏山にある竹林でたけのこを掘るところから始め、委員会ごとに趣向を凝らした創作料理を作り、みんなで味わう。そして、“合戦”の名の通りコンテスト形式で競い合い、地域の方にも審査に参加していただいている。また毎年、地域のイベントである「たけのこまつり」やPTA行事である花いっぱい運動、クリーンキャンペーン等に全校で参加することで、内川の自然の豊かさや、地域の方たちと協力することの大切さを学んでいる。

- ・地域の自然を生かし部活動などを通してクロスカントリースキーに取り組み、積極的に大会へも参加した。

中学校 1 年生

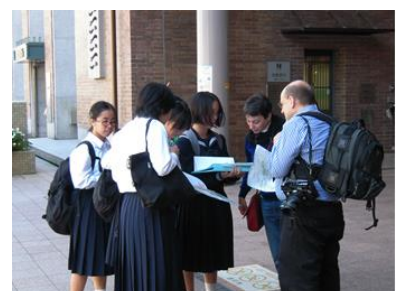
- ・地域の生徒が少ないため、地域を知るために、内川ダムや、環境開発、久万坊寺を訪ね、内川地区の自然や歴史を学ぶことが出来た。フィールドワークでは「金沢の歴史的建造物と伝統芸能を体験する」と題して調べ学習をし、兼六園、東茶屋街など市内の歴史的建造物や能楽美術館などの文化的施設を訪ねた。そして学習や体験したことをそれぞれがまとめ、小学生を招いて発表会を行った。

中学校 2 年生

- ・金沢の伝統工芸についての調べ学習や、フィールドワークでの金箔貼りや和菓子作りなどの校外体験学習を通して、金沢の文化の素晴らしさを感じることができた。武家屋敷や妙立寺などにも足を運び、石川の歴史にも触れることが出来た。体験後壁新聞にまとめ、文化祭にも展示した。

中学校 3 年生

- ・『金沢の姉妹都市と国際都市「金沢」を探る』というテーマで、金沢の姉妹都市について調べた。国際交流員との交流や、英語の This is KANAZAWA による学習、フィールドワークによる外国人への街頭インタビューなどを通して、世界とのつながりや国際都市「金沢」を実感できた。



2 成果と課題

本校では、ユネスコスクール6年目の活動として、ESD（持続可能な開発のための教育）の中でも環境、伝統、文化を大切にしながら学習を進めてきた。

小学校では内川の自然や文化・歴史を題材にした活動を通して、地域への理解を深めることができた。今年度は、図書館での調べ学習や学校のまわりの自然観察だけではなく、地域の方をゲストティーチャーに招いてお話を聞いたり、公民館を訪問しインタビューをしたりと地域の方とふれあう機会を多く持った。しかし、校外への発信の機会が少なく、どのようにして増

やしていくかが課題である。

中学校では自然が豊かな地域の良さや郷土金沢を学び発信することにおいて、地域の人々や世界とのつながりを意識し大切にすることをテーマとして取り組んできた。各自でテーマを設定し、各学年でまとめ方に工夫をこらし学びが深まるように心がけた。課題の1つとなっている、校外の発信については、中学2年生の伝統工芸の体験学習を中心にレポートとしてまとめ、文化祭の展示発表で地域の方にも成果を披露できた。今後さまざまな発信形態を模索し工夫していきたい。

このように、本校のユネスコスクールとしての活動は地域の特徴を活かしながら、徐々に定着してきている。これらの活動は学校ホームページや全校合宿などの学校行事の機会を利用することで、少しずつではあるが発信できるよう努めてきた。小学校では、内川という地域の良さを実感し、中学校ではそれに加えて郷土金沢の良さを実感することができたことで、9年間のESD教育の見通しをもつことができたことが成果であった。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）